

## 2025年度 第1回4月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年4月23日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室  
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名  
返信総数3名  
出席総数6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙
	委員	井出智子
	委員	北條俊明

### 4. 議 題

#### (1) 午後のワイド番組アクセント内

「おばあちゃんにラジオ」15分番組

放送日 毎週火曜日 17:05～ 放送中

- 2023年2月13日
- 2023年2月20日

放送分を試聴

#### (2) その他

### 5. 議事内容

#### (1) 「おばあちゃんにラジオ」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

## 議題説明

この番組は… あなたの「思い出」に寄り添う番組です。

番組テーマは「おばあちゃんにラジオ」

大切な方の大切なエピソードと共に素敵な音楽をお送りいたします。

パーソナリティ&制作 djkei こと 菊池元男

審議番組 2023年2月13日、20日の放送をもとに「ありがとう、おやじ」という短編映画を作成し2025年6月8日日曜日に完成披露会予定。

各委員からは

- 雨の日に番組を聴いて、現世の人だけでなくあの世の人とも繋がれることをしみじみと感じました。また、たまには自分にとって大切な人のことを思い出すことも必要であることも。そうすることが、亡くなられた人の供養にもなり、また改めて自分の原点というか今後の生き方などを再確認することにもなると思いました。DJKeiさんのナレーションもゆったりとした感じで番組内容ともマッチしていたし、写真家伊東さんのお父さんも、昔ながらの人物を思わせ気骨を感じました。そうした人柄が伊東さんにも受け継がれていることも。さらに河島英五さんの歌もぴったりでした。この番組は、登場人物の人の話を聴いていて、自分に重ねて聴ける番組だと思えました
- タイトルに最初は戸惑いましたが、内容は高年齢層のリスナーに寄り添った素晴らしいエピソードだと感じました。父親の背中を追う息子の姿に共感しました。ただ、有名な写真家という紹介がやや曖昧で、もう少し具体的に説明が欲しかったです。学校写真についても意図が伝わりにくく、少し物足りなさを感じました。選曲された「長崎の鐘」も、聴く人によっては古すぎる印象があったかもしれませんがとてもいい番組でした。
- 番組タイトルから想像するに、最初番組の趣旨がよくわからなかったんですが、亡くなった方への思いを語るというコンセプトがとても良いと感じました。エピソードから手紙へと自然につながる構成がわかりやすく印象的でした。ただ、写真家の伊東一平さんについては知らず、調べる必要がありました。
- あなたの「思い出」に寄り添う番組というコンセプトのとおり、ゲストの大切な人とのエピソードと曲を流すというシンプルな番組であること、またパーソナリティの菊池さんの口調や声も優しく、聞き易い番組と感じた。2日目(2/20)の放送は、ゲストの伊東写真館での取材で、BGMも合っていていいなと思った反面、窓を開けてのインタビューだったのか、車が通る音が気になった。手紙の内容も、父と息子、互いに尊敬しあっていて、聞いていて心が温かくなりました。

- 今回はとても感動しました。戦争体験を持つお父さんの姿を息子がしっかりと受け止め、自分の中で消化して生きている姿に心を打たれました。映像がない分、ラジオだからこそ想像力を働かせて心で受け止められるのだと感じました。平和や信念を持って生きる大切さが伝わる番組で、若い世代にもぜひ聞いてほしいと思いました。選曲の「長崎の鐘」もお父さんの生き様と重なり、良い演出だったと感じました。
- 地方局が「大切な方とのエピソード」を届けるというコンセプトは非常に良く、パーソナリティがゲストから丁寧に話を引き出す構成も、前後編でちょうど良い長さだったと感じました。また、番組の中で写真館からスタジオ収録に変更した柔軟な対応には、無理のない自然な温かさがあり、とても良かったと思います。
- 伊東一平さんについては全く知らず、写真が見えないラジオではその魅力が伝わりにくいと感じました。ただ、パーソナリティの語りは聞き取りやすく感情も自然で良かったです。選曲も非常に良く、「長崎の鐘」や「時代遅れ」は懐かしさがあり印象的でした。お父さんとの関係性を語るという点では人選が良かったと思います。全員が深掘りできるわけではないので、短めの手紙読みと深掘り回を分ける構成が良いと感じました。
- 亡くなった方の思い出を語るというコンセプトは良かったですが、NHKの「ファミリーヒストリー」のような印象で、写真が見えないラジオでは伝えるのが難しいと感じました。写真家・伊東さんの知名度が誰もが知るというところから高くない点や葬儀で使用するようなBGMの雰囲気も少し違和感がありました。また、写真館への訪問も目的がはっきりせず、紹介がなかったのが惜しかったです。手紙はとても良くプロが書いたような手紙でした。本人ではなくパーソナリティが代読する形が正解だったと思います。全体的に少し長く感じたので、もう少しコンパクトでも良かったと感じました。
- はじめに、ゲストの方と手紙の宛先（お父様）との関係性を、Keiさんがインタビューしてくださったので、手紙の代読もお二人の関係性を想像しながら聞くことができました。エピソードを聞いてから手紙を読むスタイルは、こちらが感情移入できるのでいいと思いました。ただ、手紙を読むテンポが少々早く感じたので、もう少し、ゆっくり、読んでいただいても良かったように思いました。今回ご紹介された伊東写真館の紹介がなかったため、せっかく人となりで紹介されて、「この方に写真を撮ってほしい」と思っても調べようがなかったのが残念でした。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

先日民放連から一斉メールで頂いた「番組審議会委員に就任した方を念頭に、番組審議会における委員の役割や、同審議会の法律上の規定などをご説明する際の資料」を元に改めて説明。

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年5月25日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年5月26日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年5月26日～）

以上